



杵築の住民ら アマビエの塗り絵制作

杵築市の住民グループ「からだこころ健幸協会」が疫病を払うとされる妖怪「アマビエ」の塗り絵を作りました。

親子で楽しんで

ストレス解消に

【杵築】健康づくり講座を主宰する杵築市の住民グループ「からだこころ健幸協会」は疫病を払うとされる妖怪「アマビエ」の塗り絵を作った。親交のある延隆寺（市内山香町立石）の首藤泰隆住職（39）に原画の

制作を依頼。新型コロナウイルスの感染拡大でストレスを感じる人が増える中、「塗り絵で一息ついてもらえれば」（同協会）としている。協会のホームページで公開しており、無料でダウンロードできる。

（50）同町野原・フィットネス指導員Ⅱによると、塗り絵は細かい作業が多いため呼吸を落ち着かせ、精神の鎮静効果がある。新型コロナ



「からだこころ健幸協会」の小田茂美さん（左）と延隆寺の首藤泰隆住職（杵築市山香町立石）

健康協会の小田茂美会長（50）同町野原・フィットネス指導員Ⅱによると、塗り絵は細かい作業が多いため呼吸を落ち着かせ、精神の鎮静効果がある。新型コロナの流行後、健康教室が以前のように開けなくなり、受講生から心身の不安を訴える声が届くようになった。家でもできるストレス解消の手段として、インターネットで見かけたアマビエを塗り絵にして配布することを思いついた。

首藤住職は以前から親しみやすい独特のタッチの仏画を制作してきた。小田さん

んと塗り絵を共作した経験もあったことから、原画制作の依頼を快諾。人魚のようなかわいらしい姿のアマビエと、お釈迦様の姿を描き上げた。長時間塗ってもらえるように、細かい花の文様も入れたという。

「新型コロナで亡くなった人への供養と、一日も早い終息への祈りを込めて塗ってもらえれば」と首藤住職。

公開後、小田さんの元には県内外から完成した塗り絵の写真が届いている。「休止中の介護予防教室の会員に配った」という連絡もあったという。小田さんは「学校の休校でストレスを感じる子どもや、生活の変化で不安を感じる保護者も多いと思う。親子で一緒に楽しむという使い方もほしい」と話していた。（佐藤由佳）



アマビエ

江戸時代に熊本県の海から現れたと伝わる妖怪。「疫病が流行した時、自分の姿を描いて人々に見せよ」と告げたといわれている。

2020年5月5日付大分合同新聞 14面

① 住民グループが塗り絵を作った理由は何でしょう？

新型コロナウイルスの感染拡大でストレスが増える中、「塗り絵で一息ついてもらえれば」と制作。

② 「アマビエ」とはどんな妖怪ですか？

江戸時代に熊本県の海から現れたと伝えられる妖怪。「疫病が流行した時、自分の姿を描いて人々に見せよ」と告げたといわれている。

③ 制作された塗り絵はどんなものですか？また、制作者の首藤さんの願いは？

人魚のようなかわいらしい姿のアマビエとお釈迦様の姿が描かれている。長時間塗ってもらえるよう、細かい花の文様も入れられている。首藤さんの願いは「新型コロナで亡くなった人への供養と、一日も早い終息への祈りを込めて塗ってほしい」。

④ 塗り絵は協会のホームページから無料でダウンロードできます。あなたも塗り絵に色を塗ってみましょう。